

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12811

研究課題名(和文) 仏教修行者の食事再現

研究課題名(英文) Reproduction of a Buddhist practitioner's meal

研究代表者

西山 綾瀬(井上綾瀬)(Inoue, Ayase)

龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：10838527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：古代インドにおいて仏教修行者がどのような食生活を送っていたか、砂糖に主眼をおいて研究した。砂糖の起源は不明だがインド付近にあると先行研究により指摘されているため、仏教に関するテキスト中の砂糖に関する記述を精査した。テキスト研究にフィールドワークを加え調査を行う予定であった。コロナ禍により十分なフィールドワークが行えなかったため、食器や調理道具などについて調査することとした。コロナ禍が明けてから、食生活に関する古代インドの道具の実態を壁画や彫刻から収集した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

仏教僧団や仏教修行者の生活に関するルールが示される仏教文献は内容解読を行う途上にある。本研究は読解のみでは理解不能な実態や、道具を美術資料や考古学的資料から明らかにしようとした点に独創性がある。その学術的・社会的意義は、(1)古代インドの食文化理解を進めたという点、(2)砂糖の起源の一端に迫る点、(3)文献の理解のために文献以外の遺産を援用した点、(4)インド文化圏における交流解明の手掛かりに仏教文献を比較し使用する研究モデルを提示した点、(5)インド伝統文化の歴史理解に寄与し得る点である。

研究成果の概要(英文)：A study was conducted to examine the dietary habits of Buddhist practitioners in ancient India, with a particular focus on sugar consumption. While the origin of sugar remains uncertain, previous research has suggested its proximity to India. Therefore, this study aimed to integrate textual analysis of Buddhist scriptures with empirical investigation, originally planned to include fieldwork. However, due to the constraints imposed by the COVID-19 pandemic, extensive fieldwork became unfeasible. Consequently, the study pivoted towards examining archaeological evidence pertaining to tableware and culinary utensils used in ancient Indian contexts. Post-pandemic, an analysis of wall paintings and sculptures provided valuable insights into the material culture associated with dietary practices in ancient India.

研究分野：仏教文化

キーワード：仏教文化 食生活 古代インド

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者が研究を継続してきた仏教出家者の食生活の規則集（諸律文献薬鍵度）の内容を踏まえ、古代の流通や医学の知見を加えて、仏教出家者の実際の食事内容に迫るものであった。律文献薬鍵度に残る砂糖の記述は、砂糖精製の最初期に迫る可能性を申請者が指摘しており、文献上の検討を終え、実際に実験する段階にきていた。また、塩についても文献上検討が済んでおり、フィールドワークによって塩の収集や採集をする段階にきていた。

そのほかの調味料、つまりは、インド料理に使われるスパイスだが、これらについてもパーリ語やサンスクリット語から現在の時点で同定できるものは同定し終えた。古代インドの仏教修行者と同時期にも活動していたとされるバラモンやヒンドゥーの儀礼に使用される食品（乳製品や酒など）については、西村直子や永ノ尾信悟の一連の研究が先行研究として挙げられ、特に乳製品は、平田昌弘が中心となって再現実験をしており、古代インドの人々の生活の一面が実際に明らかになっている（平田昌弘、板垣希美、内田健治、花田正明、河合正人[2013]「古・中期インド・アリア文献「Veda 文献」「Pāli 聖典」に基づいた南アジアの古代乳製品の再現と同定」『日本畜産学会会報』84 巻 2 号 pp.175-190.）。本研究では、先行研究以外の、つまり、いわゆる「カレー、インド料理全般」に焦点を当て、当時使用されたスパイスや調味料を諸律文献から同定し、再現するものであった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、諸律文献に記される「現象」を実際に再現することであった。仏教教団内の比丘の生活に密接に関連した「薬鍵度」は、翻訳研究だけではその全容の解明には至らないため、テキスト研究のみではなく美術作品も援用する。仏教修行者たち、ひいては、古代インド人にとっての「常識」を前提に記されているため、道具にしても、調理方法や投薬方法にしても「常識」の部分は欠落しているからである。

## 3. 研究の方法

具体的な方法は、以下のようであった。ハチミツの保存方法は律文献には「害虫や害獣から守るために吊るして保存する」とあるが、それが実際にどのように、どこから、どんな容器で、どんな結び方で、どんな縄で吊るされたのか解明できない。しかし、この疑問は、美術作品から回収することができる（アジャンター、六道輪廻図の一部分には台所の風景が描かれる）。この作品からは、梁から壺を吊っている様子が伺える。テキストの記述と作例から鑑みれば、梁から、甕のような容器で、梁にひっかけた紐を甕にスイカやボールを運ぶネットのように引っ掛けて吊るしていることが分かる。また、砂糖についても精製の工程が不明なため、地中での長期保存を通して黒糖を白くする方法を試す予定であった。

## 4. 研究成果

研究成果は、コロナ禍に見舞われ、芳しくない。黒糖を長期保存して再現するという実験は期間が足りずに断念した。しかし、「薬性度」研究を困難にしていた未詳の単語や「もの」、状況といった点の解明に向けて、具体的に、仏教遺構にみる食堂や台所、貯蔵庫といった施設、あるいは比丘が用いたと見られる諸道具、さらに壁画等に描かれた描写を活用し、実際に仏教修行者の食生活に迫ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 井上綾瀬	4. 巻 71
2. 論文標題 古代インドにおけるブドウの地域的特性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印度學佛教學研究	6. 最初と最後の頁 403-398
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上綾瀬	4. 巻 第77・78合併号
2. 論文標題 律文献中のブドウについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教学研究	6. 最初と最後の頁 127-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上綾瀬
2. 発表標題 古代インドにおけるブドウの地域的特性
3. 学会等名 日本印度学仏教学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------